



NAGASAKI UNIVERSITY ACCESS MAP

JR長崎駅から

路面電車

1番3番系統「赤迫」行き

「長崎大学前」下車 徒歩すぐ

長崎バス

「長崎駅前」バス停(高架広場下)
1番系統の「時津」「上床」「長与」等

「長崎大学前」下車 徒歩すぐ

※駐車場はありませんので
公共交通機関をご利用ください。

参加無料

会場／長崎大学中部講堂(文教キャンパス内)

お申し込み・お問い合わせ

お申し込みは長崎大学ホームページへ

<http://www.nagasaki-u.ac.jp/>

こちらからも
お申し込み
できます

受付電話番号

TEL.095-819-2007

(長崎大学広報戦略本部)

※受付時間／平日 10:00～17:00

長崎大学
リレー講座2016
開講にあたって

長崎大学長
片峰 茂

恒例の長崎大学リレー講座、昨年に続き今年も春の開催となりました。改修した中部講堂のこけら落しの意味も込めました。劇的に変容し続ける不確実性の時代にあって、未来を切り拓き持続可能な世界を展望するためには、人類の叡智を結集する必要があります。そして、それをリードする志と発想力と突破力を備えた個人＝パイオニアの存在が不可欠です。今回は、現代日本を代表するパイオニアの方々を講師としてお招きします。とりわけ、ノーベル賞を受賞されたばかりの大村智博士にご来学いただけることは、長崎大学の大きな喜びです。

長崎新聞社
代表取締役社長
オ木邦夫

「知(地)の拠点」である長崎大学から、未来につながる知識や情報を発信する場となっているリレー講座。多くの地域の方々に親しまれるこの講座が今年も開催されることに、大きな喜びを感じています。テロとの戦いなどの国際問題から、人口減などの地域の問題まで、時代は複雑化し混迷しています。知はそれらを解決に近づける力であり、この講座はその一助になるものと期待しています。

十八銀行
代表執行役頭取
森拓二郎

本講座は、地域の発展のためにともに知を共有し、ともに考え、新たな知を創造していく取組として、本年で7回目の開催になります。本年のテーマは「未来を切り拓くチカラ」です。まさに、人口減少・超高齢化する地域の未来を切り拓くのは我々地域住民の「チカラ」であり、各界で未来を切り拓いてきた講師の方々による貴重な講演は、新たな「チカラ」を授けてくれるでしょう。一人でも多くの皆さまに聴講いただき、地域の「大きなチカラ」となることを期待しています。

〈後 援〉
長崎県・長崎市・長崎市教育委員会・長崎経済同友会・
長崎県経営者協会・長崎商工会議所・(一社)長崎青年会議所・
長崎都市経営戦略推進会議・長崎経済研究所

未来を切り拓く
チカラ

長崎大学リレー講座2016

いつの時代も、未来を創造してきた先駆者たちがいる。
失敗を恐れず、幾多の困難に立ち向かった先人たちの挑戦が実り、
私たちは、これまでに多くの果実を手にしてきた。
一方で、世界は今、大きな変革の時代を迎えている。
変容し続ける不確実性の時代を私たちが乗り越えていくためには、
先人たちと同様、失敗を恐れず、変化に身を投じる強い意志が不可欠だ。
今回のリレー講座では、さまざまな分野の開拓者たちによる講演を通じ、
「未来を切り拓くチカラ」について探っていく。

飛ばないペンギンは退屈だ

未来を切り拓くチカラ



第1回

4月12日(火)
19:00~20:30

1 内科医のHIV感染症・AIDS治療薬開発

1980年代初頭、突如出現したAIDSは半数が1年で死亡するという「死の病」であった。しかし、HIV感染症/AIDSの病状・予後は化学療法の進歩で大きく改善、今や本疾患は「コントロール可能な慢性感染症」となった。しかし、本邦では新規感染・発症者数は依然として減少せず、限られた医療資源の公平な分配の見地からしても「予防としての治療」等の対応と啓発が最も中心的な戦略である。



満屋裕明

熊本大学医学部血液内科・膠原病内科・感染症免疫診療部教授
米国立衛生研究所米国立癌研究所レトロウイルス感染症研究部長

長崎県生まれ。成績が程々で、母親への親孝行と考え、医学部進学、小説家が政治家にならなかったが、機会・才覚に恵まれず卒業。外科が精神科に進もうと思ったが、結局サイエンスが進んでいると解釈した血液内科に入局。手先が器用で、偶然もあったと思われるが難しい内視鏡手術等もこなして、臨床だけでは先々時間を持て余して身が持つまいと早合点、勧められるまま研究を始めた。「1内科医の治療薬開発」の始まりである。



調 漸

副学長(産学連携担当)
学長特別補佐(社会貢献担当)

第2回

4月21日(木)
19:00~20:30

途上国から世界に通用するブランドをつくる

「必要なのは援助ではなく対等なビジネス」という考えで23歳で起業を決意。「途上国から世界に通用するブランドをつくる」という理念のもと、マザーハウスを起業。現地の職人との信頼関係の構築など多くの困難がありながら、可能性を信じ、一歩踏み出して歩んできた10年の道のりをお話します。



山口絵理子

株式会社マザーハウス
代表兼チーフデザイナー

1981年埼玉県生まれ。慶應義塾大学総合政策学部卒業。バングラデシュBRAC大学院開発学部修士課程卒業。バングラデシュ、ネパール、インドネシアの自社工場・工房でバッグ、ストール、ジュエリーのデザイン、生産を行い、日本国内17店舗、そして台湾・香港で販売を展開。



川越明日香

大学教育イノベーションセンター
助教

第3回

5月13日(金)
19:00~20:30

アイデアとは、未来をつくること。

日清カップヌードルの新キャンペーン、九州新幹線全線開業「祝!九州」、サントリー「BOSS」など、CMプランナーとして広告キャンペーンを考えてきました。「よくアイデアが思いつくね」と人から言われますが、ズバリ「秘密」があるんです。CMに限らず、アイデアを発想する方法、お話します。



東畑幸多

電通クリエイティブディレクター・CMプランナー

1975年生まれ。99年に、電通に入社。CMプランナー、クリエイティブディレクターとして数多くの広告を制作。日清カップヌードル、サントリー 天然水、トヨタ ReBORN、「祝!九州」などを手掛ける。主な受賞、クリエイターオブザイヤー、TCCグランプリ、ACCグランプリ、カンヌ金賞など。



山口純哉

経済学部
准教授

第4回

5月28日(土)
15:00~16:30

混沌とした世界の中で先を見通す力

世界は混沌とした時代に入入している。豊かさの象徴だった資本主義に綻びと陰りが生じ、拝金主義や環境問題、モラルの低下が世界中で問題になっている。今、リーダーに求められているのは先を見通す力だ。とりわけ若い世代には、平和を求める理想主義を掲げて実行する力を身に着けてほしい。



マハティール・ビン・モハマド

マレーシア元首首相

1925年7月生まれ。現在のシンガポールにあるエドワード7世医科大学を卒業して医師に。その後、政治家に転じ、1981年から2003年まで首相を務めた。多民族国家で融和政策をとり、日本人の倫理観から学ぶ「ルック・イースト政策」を導入、経済を発展させた。退任後も、平和に貢献する草の根活動に力を注ぐ。



中村桂子

核兵器廃絶研究センター
准教授

第5回

6月17日(金)
19:00~20:30

私の研究と国際貢献

50年間にわたり行ってきた微生物の生産する天然有機化合物の研究について、主としてエバメクチンを取り上げ、微生物がいかに人類の福祉と健康の増進に役立っているかを述べる。加えて、我が国が得意とするこの領域の研究によって国際貢献を目指すことの意義についても触れる。



大村 智

北里大学特別栄誉教授

1935年山梨県生まれ。東京理科大学大学院理学研究科修士課程修了。北里大学薬学部教授、社団法人北里研究所理事・所長を経て現在、米国立衛生研究所マックス・ティシュラー教授、北里大学特別栄誉教授。12年間、学校法人女子美術大学の理事長も兼務。2015年文化勲章およびノーベル生理学・医学賞を受賞。



北 潔

熱帯医学・グローバルヘルス研究科長
教授

第6回

6月20日(月)
19:00~20:30

歴史の認識を磨く

~17世紀オランダからの視界~

「知は力である」。その「知」の源泉となるのは、自らの国や地域を深く掘り下げる識見であろう。混迷する時代にこそ、物事の本質を深く考え抜き、問い直す力が求められる。わたしは近年、「17世紀オランダからの視界」を軸に日本の近現代を見つめ直してきたが、あらためてその意味を共有したい。



寺島実郎

(財)日本総合研究所理事長
多摩大学学長

1947年北海道生まれ。早稲田大学大学院政治学研究科修士課程終了後、三井物産入社。三井物産常務執行役員、早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授等を経て現職。著書に「二十世紀と格闘した先人たち 一九〇〇年 アジア・アメリカの興隆」(新潮社)



松島大輔

国際教育リエゾン機構
国際教育戦略推進部門長
教授